

## 主体的な学びの促進を狙った初年次教育科目「基礎ゼミ」の開発

Development of “Elementary Seminar”, a Freshman Class  
Aimed at Encouragement of Proactive Learning

國分三輝\*, 山川仁子\*, 牧勝弘\*  
村主朋英\*, 森博子\*, 親松和浩\*

Mitsuteru KOKUBUN, Kimiko YAMAKAWA, Katsuhiko MAKI,  
Tomohide MURANUSHI, Hiroko MORI, Kazuhiro OYAMATSU

## 要 旨

主体的・能動的学修の促進を主眼とし、大学における学修のスタートを総合的にサポートする初年次教育科目「基礎ゼミ」を開発した。クリティカルシンキング、プレゼンテーション、プロジェクトベースラーニング、図書館オリエンテーション、アドバイザー（担任）面談などの内容を盛り込んだ。履修者に対するアンケートの分析から、主体的学修の促進については学生個々の意識として感じられるまでの効果は確認できなかったが、論理的思考力の向上やグループワークを通じた能動的学修方法の修得については一定の効果を確認できた。大学における学修のスタートをサポートする目的は概ね達成された。

キーワード：初年次教育 主体的学修 能動的学修 クリティカルシンキング プレゼンテーション プロジェクトベースラーニング

## 1. はじめに

文部科学省の中央教育審議会（以下、中教審）は2008年12月の答申「学士課程教育の構築に向けて」において、学士課程教育の質の維持・向上のために、学士課程共通の学修成果に関する指針として「各専攻分野を通じて培う学士力」（以下、学士力）を提示した（文部科学省中央審議会，2008）。学士力は「知識・理解」，「汎用的技能」，「態度・志向性」，「統合的な学修経験と創造的思考力」の四つで構成され、具体的なスキルとして「コミュニケーションスキル」，「数量的スキル」，「情報リテラシ」，「論理的思考力」，「問題解決力」が挙げられている。また、いわゆる大学全入時代における大学生の学力や主体性の低下に対応するために、大学生活への適応、大学で必要な学修方法・技術の修得、ライフプラン・キャリアプランづくりなどを含めた、体系的な初年次教育の導入・充実の必要性を掲げている。さらに、2012年8月の中教審による答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」では、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換の必要性や、能動的学修のための事前準備・授業受講・事後展開のための十分な学修時間確保の必要性が掲げられている（文部科学省中央審議会，2012）。

愛知淑徳大学人間情報学部（以下、本学部）では、2010年4月の学部創設時において、1年次の必修科目と

\* 愛知淑徳大学人間情報学部

表1 本学部の1年次必修科目(2013年度以前入学者)と学士力との対応関係

科目	対応する学士力・スキル
人間情報入門	知識・理解
文献講読演習	論理的思考力
プレゼンテーション演習	コミュニケーションスキル
情報検索演習	情報リテラシ
メディアリテラシ	情報リテラシ
情報関係法	情報リテラシ
統計演習Ⅰ	数量的スキル

して「人間情報入門」、「文献講読演習」、「プレゼンテーション演習」、「情報検索演習」、「メディアリテラシ」、「情報関係法」、「統計演習Ⅰ」が設置されていた。それぞれの科目は、中教審が示す学士力と表1に示すような対応関係にあるといえる。本学部の初年次教育は、科目としては学士力の大半をカバーしていたと考えられる。しかしながら、問題解決力や能動的学修のような、主体的に問題を発見し解を見いだしていく力を養う科目が不足していた。また、演習科目の場合は数十名程度のクラスに分かれて開講されるが、授業の目標や概要は統一されているものの、具体的な授業の内容や進め方は各クラスの担当教員に任されていたため、体系的には十分に担保されていなかった。

さらに、大学生活への適応やライフプラン・キャリアプランづくりの機能については、1年次科目として体系的には備えていなかった。これらの機能は別途、「アドバイザー」と呼ばれる担任制度が担っており、半期に一度の面談などを通じて、学修や学生生活およびキャリアプランなどに関する助言を行っていた。しかし、アドバイザー教員は1年次必修科目の担当を兼ねていない場合が多く、担当学生の具体的な学修・生活状況を十分に把握できず、必要十分な機能を果たせていなかった。

そこで本学部では、2014年4月のカリキュラム改変に合わせて、問題解決力や能動的学修といった学生による主体的学修の促進を狙うとともに、アドバイザー機能も兼ね備え、大学における学修のスタートを総合的にサポートする新しい初年次教育科目「基礎ゼミ」を開発することとした。本報告では、「基礎ゼミ」の具体的な仕様と体制、テキストや指導マニュアルなどの教材、履修前後の学生の変化などについて述べる。

## 2. 「基礎ゼミ」の仕様と体制

### 2.1 仕様・構成

#### 2.1.1 取り扱う内容

中教審により掲げられた学士力に含まれるスキル、および、能動的学修や大学生活への適応サポートの必要性を考慮し、大きく六つの要素で「基礎ゼミ」を構成した(表2)。なお、「基礎ゼミ」の開講に伴い、カリキュラム改変前の1年次必修科目(表1)のうち、「文献講読演習」と「プレゼンテーション演習」を廃止した。以下で「基礎ゼミ」で取り扱う要素の概要を述べる。

#### 2.1.2 大学での学修の概説

大学における学修の特徴を手短に解説する内容である。大学では高等学校までの学修と異なり、正解の無い問題に取り組み、そのためには批判的思考により自身で問題を発見・設定して、自身で調べ、論理的に考え・主張していく必要があることを概説する。これにより、主体的・能動的な学修への転換を促進させる。

#### 2.1.3 図書館オリエンテーション

大学における学修のための最低限の情報リテラシとして、大学図書館の概要と利用方法を概説する内容である。読書の場としての利用方法ではなく、文献(専門書、学術論文、レファレンス資料など)を探索するため

表2 「基礎ゼミ」で取り扱う要素とそれらの狙い

要素	狙い
大学での学修の概説	大学生活への適応
図書館オリエンテーション	情報リテラシ
クリティカルシンキング	論理的思考力, 問題解決力
プレゼンテーション	論理的思考力, コミュニケーションスキル
プロジェクトベースラーニング	問題解決力, 能動的学修
アドバイザー面談	大学生活への適応, キャリアプラン

の基礎的な手順を解説する。これにより、自身で主体的に問題を発見・解決していくための情報検索スキルを養う。

#### 2.1.4 クリティカルシンキング

身近な会話、新聞記事、ニュースなどの文章中から、その論点、主張、根拠、隠れた前提などを発見させる演習である。これにより、文献中の議論を正確に把握するとともに、批判的思考（クリティカルシンキング）を用いて、自身で問題を発見・設定する力を養う。また、自身で発見した問題を発表させることで、論理的に説明する力も養う。

#### 2.1.5 プレゼンテーション

自身の考えを効果的かつ印象的に他者に伝える演習である。効果的なプレゼンテーションの典型的な構成方法の演習とともに、ジェスチャーやビジュアルエイドを用いて印象的なプレゼンテーションを構築するための演習を行う。これにより、学修の場だけでなく、社会や将来の仕事の場で活用できるコミュニケーションスキルを養う。

#### 2.1.6 プロジェクトベースラーニング (Project-based learning; PBL)

唯一の正解が無いまたは解決方法が知られていない諸問題に対して、主体的に課題を発見し、グループワークによって課題を解決させていく演習である。グループ内で役割を分担しての作業、情報の収集・整理、ディスカッション、プレゼンテーションなど、大学における学修で必要な要素を総合的に体験させる。

#### 2.1.7 アドバイザー面談

アドバイザー教員と学生の個人面談により、学修や大学生活に関する助言を行う内容である。また、自己分析をもとに、自身のキャリアプランを考えさせ、記述させる。さらに自身のキャリアプランに対する他者（友人や家族）からの客観的なコメントを得させる。これらにより、大学生活への適応を総合的にサポートする。

## 2.2 授業計画

「基礎ゼミ」の授業計画を表3に示す。全15回の授業のうち、前半（第1～6回）で学士力に含まれる基礎的なスキルを修得させる計画とした。中盤（第7・8回）では、アドバイザー面談により、入学後の大学生活への適応状況を確認するとともに、キャリアプランづくりを行わせる計画とした。後半（第9～14回）では、PBLにより、主体的・能動的学修を総合的に体験させる計画とした。

## 2.3 運営体制

「基礎ゼミ」は、大学で必要な学修スキルの向上に加え、アドバイザー教員による大学生活への適応サポート機能も兼ね備えている。また、プレゼンテーションやPBLの実施においては、少人数クラスによる運営が望ましい。そこで、学部のアドバイザー教員（2014年4月時点で17名）全員が「基礎ゼミ」を担当し、17クラスを開講した。2014年度の本学部への入学者は246名であり、学籍番号順にクラス分けを行って、各クラスの履修者を14～15名とした。また、カリキュラム改変により廃止した「文献講読演習」の読替科目として「基礎ゼミ」を設定したことにより、2年次以上の再履修者数名が各クラスに加わった。

表3 「基礎ゼミ」の授業計画

授業回	計 画
1	授業概要説明, 自己紹介, 大学での学び方, 施設見学
2	図書館オリエンテーション <sup>(※)</sup>
3	効果的プレゼンテーション(1) 練習, 課題提示
4	効果的プレゼンテーション(2) 発表, 討議
5	クリティカルシンキング(1) 練習, 課題提示
6	クリティカルシンキング(2) 発表, 討議
7	中間レポート(1)・個人面談(1)
8	中間レポート(2)・個人面談(2)
9	グループ演習(1) グループ分け, 課題提示, 作業開始
10	グループ演習(2) 調査, 課題の明確化
11	グループ演習(3) 討議, アイデア・主張点の整理
12	グループ演習(4) 討議, 根拠の整理
13	グループ演習(5) プレゼンテーション準備
14	グループ演習(6) プレゼンテーション実施, 相互評価
15	まとめ, 最終レポート指示

※図書館オリエンテーションは第3～6回に行う場合がある。

## 2.4 開発体制・分担・スケジュール

「基礎ゼミ」の構想, 内容検討, 教材開発, 運営サポートなどのために, 学部に「基礎ゼミ準備委員会」(以下, 準備委員会)を設置し, 6名の委員で構成した(本報告の著者6名)。開発作業の内容・分担を表4に示す。また, 主な開発スケジュールを表5に示す。

表4 「基礎ゼミ」開発のための作業内容・分担

分 類	作業内容	主担当	副担当
統括	全体調整, 工程管理	親松	—
テキスト	第1・15回 授業概要・まとめ等	親松	國分
	第2回 図書館オリエンテーション	村主	山川
	第3・4回 効果的プレゼンテーション	國分	山川
	第5・6回 クリティカルシンキング	山川	國分
	第7・8回 中間レポート・個人面談	森	牧
	第9～14回 グループ演習	牧	森
	参考文献・読書リスト	村主	—
	付録(卒業論文執筆要項, 施設利用案内)	山川	—
	全体編集, 印刷発注等	國分	山川
指導マニュアル	各回内容のマニュアル作成	各担当者	—
	印刷, 製本	國分	山川
	指導説明会の開催・運営	村主	—
各種備品	備品の選定・発注等	山川	國分

表5 「基礎ゼミ」の主な開発スケジュール

時 期	内 容
2013年11月下旬	準備委員会立ち上げ, 全体計画, 役割分担等
2014年1月中旬	テキスト素案持ち寄り, 検討
2月中旬	テキスト原稿案持ち寄り, 検討
2月下旬	テキスト原稿最終案集約, 仮確定
3月上旬	テキスト案を全教員に展開, 意見集約
3月中旬	テキスト内容確定, 印刷
3月下旬	指導マニュアル作成, 備品準備
4月上旬	指導説明会開催 (学部のFD研修会として)
4月中旬	「基礎ゼミ」開講

### 3. 教材開発

#### 3.1 テキスト

##### 3.1.1 全体構成

「基礎ゼミ」のテキストは、完全に本学部オリジナルなものとして新たに開発した。開発したテキストの構成（目次）を表6に示す。全15回の各授業回に対応させた章分けとし、各回一章ずつで完結する構成とした。また、適宜提出させるレポートの用紙、資料複写のための申請書、メモ用ページなどもあらかじめテキスト内に含めることで、本テキスト一冊で「基礎ゼミ」に必要な材料が全て揃うようにした。さらに、卒業論文の執筆要項（抜粋）や学部の施設利用案内を含めることで、「基礎ゼミ」の履修後も各種マニュアルとして長期間利用できるようにした。

##### 3.1.2 各章共通の構成・体裁

各章の冒頭には全て、「本日のToDo」「目標」「大学や社会でどう生きる？」という三つの項目を含めた（図1）。「本日のToDo」では、各授業回の実施内容を示し、各回の導入の円滑化を狙った。「目標」では、各回の達成目標を具体的に示し、学修の達成度を自己評価させることを狙った。「大学や社会でどう生きる？」では、各回の学修内容が大学での学修や卒業後にどのように役立つかを示し、各回の学修に対する動機づけの向上を狙った。また、授業外の学修時間を確保させるため、ほぼ毎回「次回までの課題」を設定した。

各章は偶数ページ数で構成・完結させ、各回の学修内容を見開きで俯瞰的に把握できることを狙った。また、能動的な学修を促進させるため、解説や指示事項よりも、履修者自身による書き込みや作業を行わせるスペースをできる限り広く確保した（図2, 3）。さらに、適宜テキストを回収して担当教員が学修状況をチェックし、学修アドバイスなどを記述できるスペースを設けた。

##### 3.1.3 装丁・製本

テキストのサイズはA4縦とした（図4）。書き込みがしやすいよう、本文の用紙は上質紙（44.5kg）とした。また、履修期間中のテキスト汚損を抑制するため、表紙は厚手の用紙（125kg）とし、表面にポリプロピレン加工を施した。

#### 3.2 その他の教材・備品等

「基礎ゼミ」の授業運営の円滑化や担当教員の便宜のために、表7のような補助教材・備品を準備し、担当教員に配付した。

#### 3.3 指導マニュアルと指導説明会

各クラスにおける指導内容、進度、成績評価方法などの標準化のために、指導マニュアルを作成するととも

表6 開発した「基礎ゼミ」テキストの構成（目次）

章など	タイトル（副題）	頁
第0回	はじめに	1
第1回	大学での学びをはじめよう (授業概要説明, 自己紹介, 大学での学び方, 施設見学)	2
第2回	本もネットも使い倒そう (図書館オリエンテーション)	4
第3回	人の心をつかむ発表をしよう (効果的プレゼンテーション(1) 練習, 課題提示)	8
第4回	「私の大好き」を伝えよう (効果的プレゼンテーション(2) 発表, 討議)	14
第5回	なぜ?を考えよう (クリティカルシンキング(1) 練習, 課題提示)	18
第6回	身の回りの議論を分析しよう (クリティカルシンキング(2) 発表, 討議)	24
第7回	中間地点で, 実力試し (中間レポート(1), 個人面談(1))	28
第8回	自分探し&学ぶべきこと宣言 (中間レポート(2), 個人面談(2))	30
第9回	グループ学習の始まり・始まり (グループ演習(1) グループ分け, テーマ選択, 意見交換)	34
第10回	情報を集めよう (グループ演習(2) 調査, 情報収集, 課題の明確化)	40
第11回	いざ意見交換, 解決策は? (グループ演習(3) グループ内討議, 主張・根拠の整理)	44
第12回	中間発表 (グループ演習(4) グループ間討議, 外部意見の集約)	48
第13回	発表前に整理整頓 (グループ演習(5) プレゼンテーションの準備, 発表練習)	50
第14回	いよいよ最終発表 (グループ演習(6) 最終プレゼンテーション, 相互評価)	52
第15回	卒業研究に向けていざ旅立ちのとき (まとめ・最終レポート)	54
参考文献		56
付録1	卒業論文・卒業制作説明書執筆要項(抜粋)	58
付録2	人間情報学部 施設利用案内	62
メモ用ページ		64
レポート用紙	中間レポート用	75
レポート用紙	最終レポート用	79
申請書	コピー機・印刷機 使用願	83

に、「基礎ゼミ」担当教員全員に対する指導説明会を実施した。指導マニュアルには、各回の概要、準備、具体的な指導要領、指導上の留意点、演習問題の解答例や解説、各回の成績評価基準などを掲載した。テキスト各ページの縮小版の上に各所における留意点を重ねて示すことで、平易・直感的に指導のポイントを把握できるようにした(図5)。指導説明会は、授業開始直前の週に、学部のFD研修会として開催した。準備委員会による進行のもと、テキストと指導マニュアルを用いて各回の具体的な指導の要領や成績評価方法について解説した。また、開発段階では考慮できていなかった授業運営の詳細な点などについて検討し、担当教員間で指導方法について意思統一を行った。

### 第1回 大学での学びをはじめよう

授業概要説明、自己紹介、大学での学び方、施設見学

**本日のToDo**

- ① 自己紹介
- ② 大学での学び方
- ③ よく使う施設の探検(課題)

**目標** (達成できたら✓しよう)

- クラス全員の名前と特徴をおぼえる
- 高校までとは異なる大学での学び方を理解する
- 学びや生活の場とそれらの使い方を把握する

**大学や社会でどう生きる？**

大学や社会ではグループでの作業や話し合いの機会が多くあり、これらには互いの信頼関係が不可欠です。自己紹介は、知らなかった人との間に信頼関係を築き、スムーズに仕事をすすめるための第一歩です。もちろん、将来の就職活動においても印象的な自己紹介は大切です。一方で、大学や社会では、あらゆることに「自己責任」で進みます。大学の上半分の「お方や、よく使う施設の場所や使い方を把握して、大学の授業や環境を100%活用しましょう。

**自己紹介**

- ① 名刺を作る(15回ずつと使います)
  - ① 用紙を回つかりにして三角の形を作る
  - ② 半籍番号、氏名、愛称
  - ③ 自由にデコレーション
- ② 自己紹介しよう(一人1分)
  - ① 愛称を名刺の裏面に書く
  - ② 自分や自分の所属、自分の好きなことを話す
  - ③ 大学の授業や環境について話す

①②③をアスメンターの自己紹介で確認しましょう。

### 大学での学び方

- ① 講義と演習
  - ① 講義: 教員が話し、聴くことがメインの授業 … ( )や( )の習得
  - ② 演習: 課題について調べ・考え・実験し・作り・報告する … ( )的( )的な学び
- ② 授業の受け方
  - ① 板書は最小限、重要と感じたことは指示がなくても( )
  - ② 演習は課題を積み重ねてスキルを上げるもの( )が重要
  - ③ 他の受講者と教員に迷惑をかけない( )
  - ④ 指示は聞き漏らさない、確認は( )を毎日チェック
- ③ 考える「自分で学ぶ」は大切
  - ① 大学で扱うテーマは、高校や中学校よりも( )が正解がないこと
  - ② 講義で( )を( )を意識する
  - ③ ( )を( )を考え、相談しながら進める
  - ④ 大学教員は( )を主体的に( )や( )で調べる
- ④ 卒業論文/卒業研究で「学士」の称号を得る … 付録1参照
  - ① 卒業論文/研究テーマは決められない、世の中の課題を自分で見出し、自分で考えて( )する
  - ② 研究テーマは、何のためにやるかという( )と( )が重要

★ 次回までの課題 ★

① キャンパス内の以下の場所に行つてクイズの答えを見つけてきましょう。場所は「GUIDEPOST」と付録2を見て自分で探しましょう。これも自分で学ぶための訓練です。答えだけを知りたがるのはダメですよ!

場所	クイズ	答え
3D設計演習室	ガラス張りの演習室、廊下に面した壁の( )の( ) (壁のガラスは除く)	
多目的実験演習室	演習室の入口に向かって左側の壁の( )の( )の( )の( )	
ワークスペース	建物入口の( )の( )の( )の( )	
情報設計演習室	( )の( )の( )の( )の( )	
学生部	( )の( )の( )の( )の( )	
総合( )	( )の( )の( )の( )の( )	
保健管理室(学生部)	( )の( )の( )の( )の( )	
研究( )	( )の( )の( )の( )の( )	

② 第3回の最初のページ(p.8)を読んで、それぞれのプレゼンの印象を書き込んでおきましょう。

図1 テキストのサンプルページ (第1回)

### 第6回 身の回りの議論を分析しよう

クリティカルシンキング(2) 発表、討議

**本日のToDo**

- ① 身の回りの議論を分析し、発表する
- ② 他人の分析結果を聞く

**目標** (達成できたら✓しよう)

- 問題・主張・根拠を把握・確認する
- 分析結果を発表する
- 他人の発表を聞き、問題・主張・根拠を確認する

**身の回りの議論を分析する**

<取り上げた授業・本・新聞・雑誌のタイトル>

その議論で取り上げられている「問題」は何でしょうか? その問題に対する筆者(授業)の「主張」は何でしょうか?

問題(目的)

→

主張(結論)

どんな「根拠(理由)」に基づいてその主張(結論)を述べているのでしょうか?

根拠(理由)

↑

主張(結論)

### 他の人の発表を聞いて考えよう

① 問題(目的)・主張(結論)・根拠(理由)は何であるか、メモをとりながら聞きましょう。

② 発表を聞き、a-eについてそれぞれ採点しましょう。

a. 「問題」は明確ですか?(5点) b. 「主張」は「根拠」にもとづいて述べられていますか?(5点)

c. 問題に対する主張に納得できましたか?(10点)

③ 自由にコメントを書きましょう。

発表者	①問題(目的)・主張(結論)・根拠(理由)	②a	②b	②c	②合計	③コメント
1	問題: 主張: 根拠:	/5点	/5点	/10点	合計: /20点	
2	問題: 主張: 根拠:	/5点	/5点	/10点	合計: /20点	
3	問題: 主張: 根拠:	/5点	/5点	/10点	合計: /20点	
4	問題: 主張: 根拠:	/5点	/5点	/10点	合計: /20点	
5	問題: 主張: 根拠:	/5点	/5点	/10点	合計: /20点	
6	問題: 主張: 根拠:	/5点	/5点	/10点	合計: /20点	
7	問題: 主張: 根拠:	/5点	/5点	/10点	合計: /20点	
8	問題: 主張: 根拠:	/5点	/5点	/10点	合計: /20点	
9	問題: 主張: 根拠:	/5点	/5点	/10点	合計: /20点	

図2 テキストのサンプルページ (第6回)

— 21 —

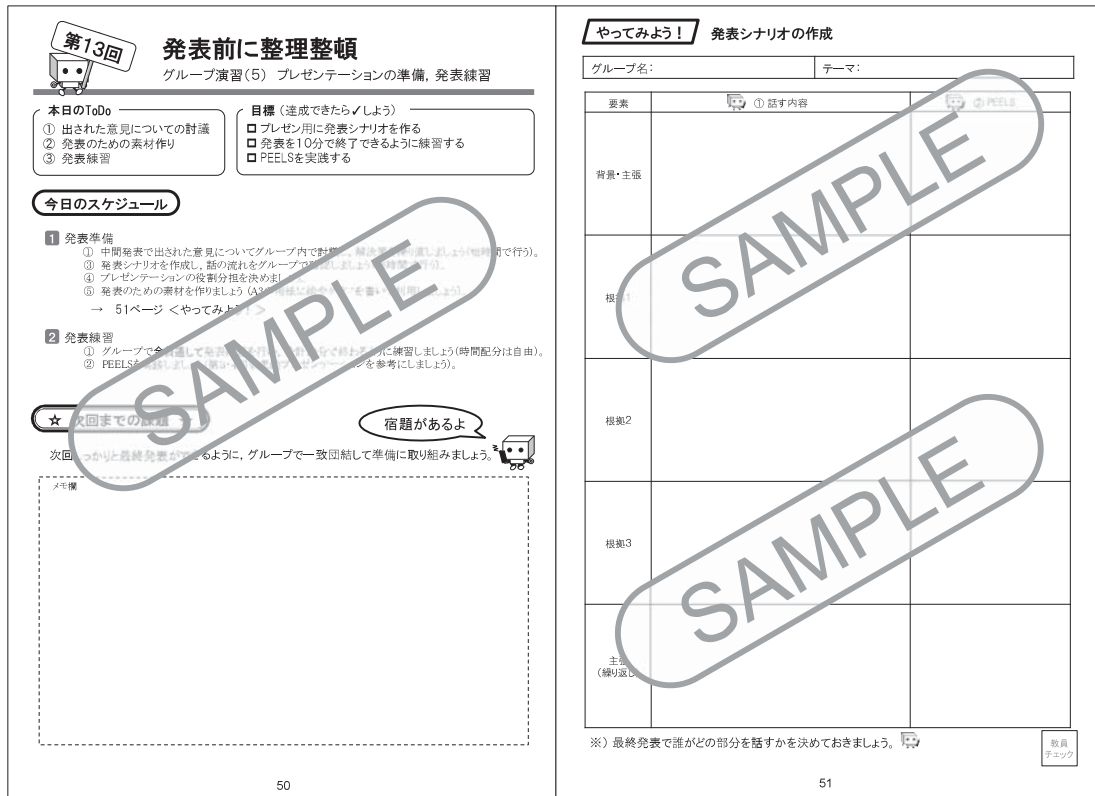


図3 テキストのサンプルページ (第13回)

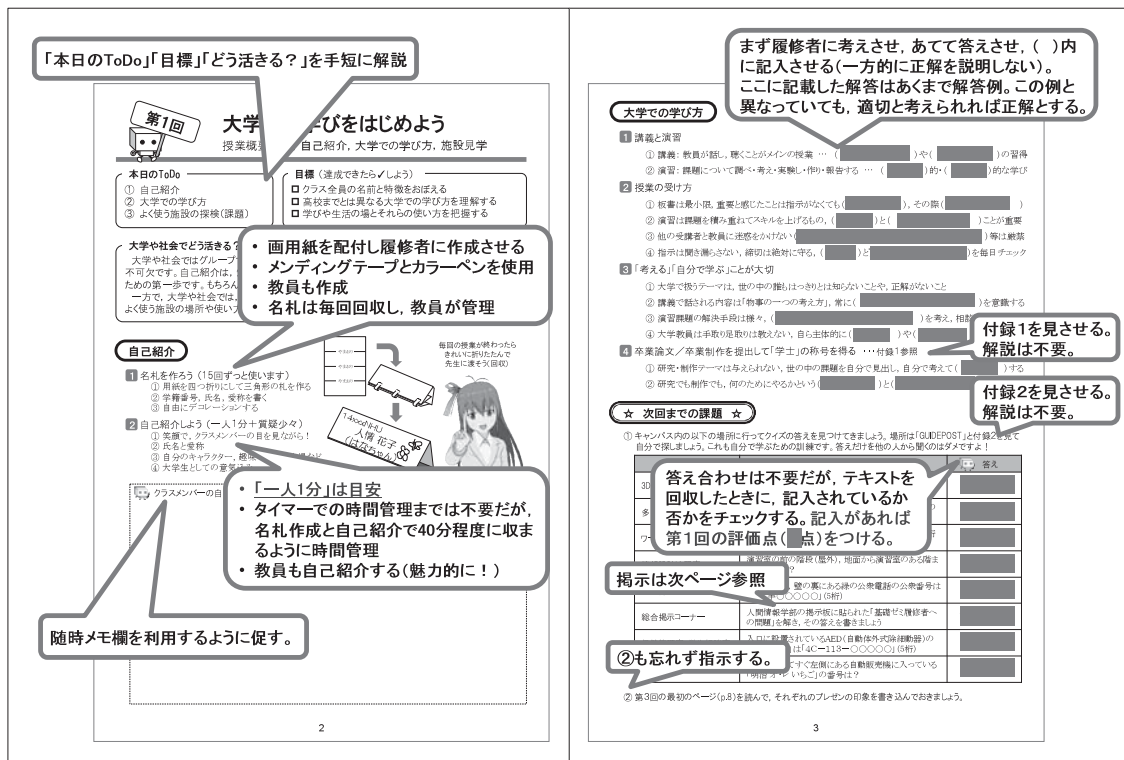


図4 テキストの装丁



表7 「基礎ゼミ」の補助教材・備品

教材・備品	個数	用途
色画用紙（八つ切り）	履修者数分	名札作成
メンディングテープ	適量	名札作成、資料貼り付け等
油性ペン（細字・極細）	10色セット	名札作成、ビジュアルエイド作成等
油性ペン（太字・細字）	10色セット	ビジュアルエイド作成
デジタルタイマー	1個	プレゼンテーション時間管理
スタンプ	1個	学修状況・進捗チェック
プラスチックケース	1個	教材・備品等の収納・運搬
布製バッグ	1個	テキスト回収



履修者への配慮のために、図中では演習問題の解答や成績評価の具体的な点数は塗りつぶして表示した。

図5 指導マニュアルのサンプルページ（第1回）

## 4. 履修前後の学生の意識変化

### 4.1 目的

新しく開発した「基礎ゼミ」の有効性や履修前後の学生の意識の変化を確認するため、また、教材や運用面での改善点を探索するために、「基礎ゼミ」の履修者全員を対象にアンケート調査を実施した。

### 4.2 方法

#### 4.2.1 調査対象者

2014年度前期開講の「基礎ゼミ」履修者全員（再履修者を含む250名）を対象とした。

#### 4.2.2 調査タイミングと調査内容

「基礎ゼミ」第1回の授業終了前および第15回の授業終了前に履修者に担当教員からアンケート用紙を配布し、授業終了までの時間で回答させた。以降、第1回終了時のアンケートを「履修前アンケート」、第15回終

了時のアンケートを「履修後アンケート」と呼ぶ。有効回答は、履修前アンケートは242名、履修後アンケートは233名であった。

履修前アンケートと履修後アンケートのいずれにおいても、表8に示す10個の質問項目について「全く当てはまらない(1点)」～「とてもよく当てはまる(5点)」の5段階で評価させた。なお、履修前アンケートでは、「大学の授業に期待すること」と「大学の授業で不安に思っていること」について自由記述で回答させた。また、履修後アンケートでは、「基礎ゼミを通して成長したこと」と「基礎ゼミ全体への感想」について自由記述で回答させた。

### 4.3 結果

#### 4.3.1 アンケート評価値の履修前後の比較

10個の質問項目に対する評価の平均値について、履修前後の比較を図6に示す。調査タイミング(履修前後) (2) × 質問項目 (10) の二要因分散分析を行ったところ、質問項目の主効果と、調査タイミングと質問項目の交互作用が有意であった(それぞれ  $[F(9, 4257) = 118.42, p < .01]$ ,  $[F(9, 4257) = 8.01, p < .01]$ )。

交互作用について、各質問項目における調査タイミングの単純主効果を分析したところ、質問項目2, 3, 4, 9, 10において履修前後で有意差がみられた。質問項目2, 3, 4については、履修前に比べて履修後の評価値が

表8 履修前後で共通の質問項目

No.	質問項目	分類
1	授業についていけるように予習をする	学修習慣
2	指示されなくても重要と感じたことはメモやノートを取る	学修習慣
3	興味のあることは自分で調べてみる	主体的学修
4	いろいろなことを学ぶのは楽しい	主体的学修
5	自分なりに計画や目標を立てて勉強する	主体的学修
6	もっとうまい解き方や別の考え方はないかと考える	問題解決力
7	難しい課題に取り組むことは面白い	問題解決力
8	試行錯誤しながら問題を解決することが楽しい	問題解決力
9	グループワークで協力して作業するのが好きだ	コミュニケーションスキル
10	自分の考えを筋道を立ててうまく伝えることができる	論理的思考力

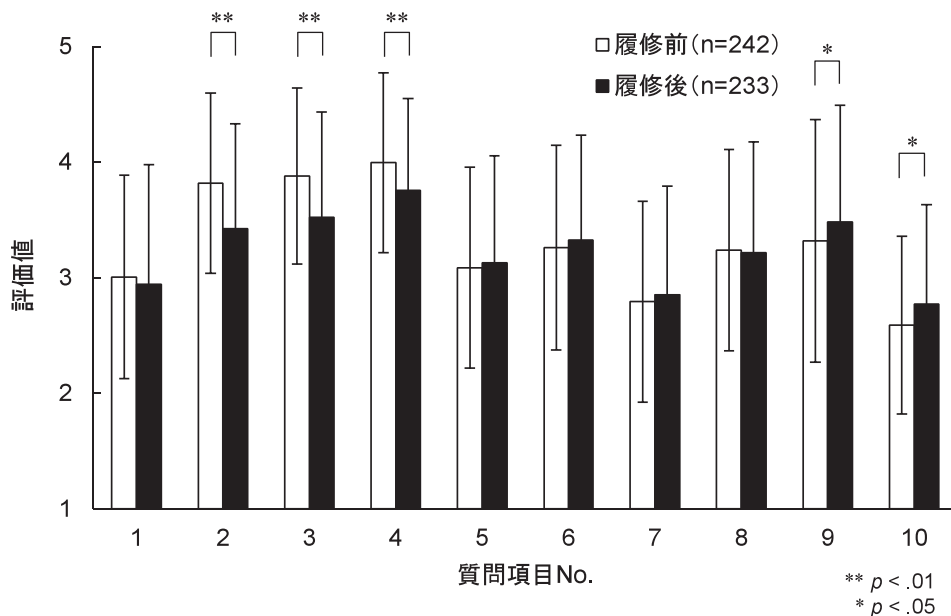


図6 10個の質問項目に対する評価の平均値

有意に低下した。また、質問項目 9, 10 については、履修前に比べて履修後の評価値が有意に上昇した。

各調査タイミングにおける質問項目の単純主効果は、履修前後ともに有意であった。Ryan 法による多重比較の結果、非常に多様な効果が混合しており、一定の解釈が困難であった。定性的には、質問項目 1, 7, 10 において評価の平均値が 3.0 を下回っており、履修前後に関わらず履修者にとって不得意と感じる内容であると考えられた。

#### 4.3.2 履修前アンケートの自由記述（期待・不安）の分析

履修前アンケートの二種類の自由記述の回答に対してテキストマイニングを行った。分析には SPSS Text Analysis for Surveys 3.0（以下、TAS）を用いた。TAS によりキーワードの抽出を行った後、出現頻度が 3 回以上のキーワードをカテゴリ化した。

「大学の授業に期待すること」への回答について、30 回答以上を含むカテゴリとして「学ぶ(66)」、「授業(36)」、「自分(36)」が抽出された（括弧内の数値は各カテゴリに含まれた回答数を示す）。「学ぶ」を含む回答を概観したところ、「興味のある分野」や「社会で役立つ専門的な内容」との回答が多くみられた。「授業」を含む回答では、「専門的」かつ「分かりやすく楽しい」との回答が多くみられた。「自分」を含む回答では、「好きなこと」や「興味があること」との回答が多くみられた。

「大学の授業で不安に思っていること」では、30 回答以上を含むカテゴリは「いく(102)」、「つく(97)」、「どう(44)」、「不安(39)」、「単位(33)」、「授業(30)」であった。「いく」、「つく」、「どう」を含む回答はほとんどが「ついていけるかどうか」という記述であった。具体的には「授業についていけるかどうか」や「単位が取れるかどうか」との回答が多くみられた。

#### 4.3.3 履修後アンケートの自由記述（成長・感想）の分析

履修後アンケートの自由記述についても、TAS を用いて、履修前と同様の分析を行った。

「基礎ゼミを通して成長したこと」では、30 回答以上を含むカテゴリは「なる(71)」、「発表(65)」、「できる(55)」、「人前(37)」、「話す(32)」であった。「なる」はほとんどが「できるようになった」という回答であり、具体的には「人前で発表すること」や「クリティカルシンキングを用いて考えて文章を書くこと」に関する記述であった。

「基礎ゼミ全体への感想」では、30 回答以上を含むカテゴリは「楽しかった(44)」、「思う(41)」、「授業(37)」、「学ぶ(33)」であった。「楽しかった」については、「グループワーク」や「授業の雰囲気」に関する記述が多かった。「授業」と「学ぶ」については、「社会で必要なこと」、「たくさんしたこと」、「理解できた」などの回答が多くみられた。

### 4.4 考察

予習をする学修習慣（質問項目 1）、難しい課題に取り組む問題解決力（質問項目 7）、自分の考えを筋道を立てて説明する論理的思考力（質問項目 10）について、不得意と考えている学生が多かった。これら 3 項目のうち、論理的思考力（質問項目 10）については履修後に有意に評価が高まった。クリティカルシンキングやプレゼンテーションの学修を通じて、論理的な思考や説明のスキルに対して自信を持ったものと考えられる。しかしながら、質問項目 10 に対する評価の平均値は履修後も 2.76 と低く、十分な向上とはいえない。また、学修習慣（質問項目 1）や問題解決力（質問項目 7）については、履修の前後で大きな変化はみられなかった。予習をして授業に臨む態度や、難しい課題にも積極的に取り組む態度を醸成できるよう、内容の改善が必要であろう。

メモやノートをとる習慣（質問項目 2）、自分で調べる主体性（質問項目 3）、いろいろなことを学ぶ楽しさ（質問項目 4）については、履修後に有意に低くなってしまった。今回のアンケートはあくまで履修者自身の主観的な意識を調べたものであるため、実際にこれらの習慣や態度が低下したかは明らかではない。むしろ、これらの習慣や態度の重要性や自身でそれらができていないことに気づき、自己評価が下がった可能性も考え

られる。これらの要因については、引き続き検討していく必要がある。

グループワークやコミュニケーションの能力（質問項目9）に関する評価は、履修後に有意に高まった。履修後アンケートの自由記述においても、グループワークやプレゼンテーションの学修を通じて、グループ内で意見を交わしたり、人前で話したりすることに自信を持てたことが分かった。個人としての主体的な学修や問題解決能力に対しては十分な自信は得られなかったものの、グループで問題解決していくプロセスの重要性を認識できたものと考えられる。

履修前アンケートの自由記述からは、興味がある専門分野や社会で役立つ内容の学修を深めたいという期待の一方で、授業についていけるかどうかや単位を修得できるかどうかの不安の意識が高いことが分かった。大学における学修方法やプロセスに関する知識の不足や、自身の学力や主体的学修能力の不足に対する意識が要因であると推察される。これらの不安を取り除き、専門性・有用性の高い学修の前提として基礎的なスキルを高め、大学における学修をスムーズにスタートさせるために、「基礎ゼミ」は有用であろう。

「基礎ゼミ」の主な狙いであった主体的な学修の促進については、学生個々の意識として感じられるまでの効果は確認することはできなかった。しかしながら、クリティカルシンキングやプレゼンテーションを通じた論理的な思考力の向上、および、グループワークを通じた能動的な学修方法の修得については、一定の効果を確認することができた。

## 5. まとめと今後の展望

大学（学士課程）において必要な問題解決力や能動的学修といった主体的な学修の促進を狙うとともに、大学生活への適応やキャリアプランづくりを支援し、大学における学修のスタートを総合的にサポートするために、新しい初年次教育科目「基礎ゼミ」を開発した。「基礎ゼミ」には、クリティカルシンキング、プレゼンテーション、PBL、図書館オリエンテーション、アドバイザー（担任）による面談などの内容を盛り込んだ。授業で学生が利用するテキスト、教員が利用する指導マニュアルなどを新規開発し、全てのアドバイザー教員（17名）が担当して、2014年度新入生の必修科目として開講し、授業を実施した。

「基礎ゼミ」の履修者全員を対象とした履修前後のアンケートを分析した結果、主体的な学修の促進については、学生個々の意識として感じられるまでの効果は確認することはできなかった。しかしながら、クリティカルシンキングやプレゼンテーションを通じた論理的な思考力の向上、および、グループワークを通じた能動的な学修方法の修得については、一定の効果を確認することができた。総合的には、大学における学修のスタートをサポートする目的は概ね達成されたと考えられた。

この「基礎ゼミ」の新規開発にあたっては、新入生への「総合的な」サポートのために、多様な学修内容を網羅的に盛り込んだ。そのため、一つ一つの内容に関する学修時間が十分ではなく、具体的な学修スキルを十分に向上させ、かつ、その向上が学生自身に意識され自信を感じるまでの効果が得られなかった可能性がある。今後は、学生による履修前後のアンケートをより詳細に分析した上で、各学修内容の配分や難易度について再検討し、より効果を高められるように改善していきたい。

また、一つの科目のみで初年次教育に関する諸課題に対応することは困難であろう。「基礎ゼミ」では、特にPBLによる能動的な問題解決プロセスの修得に効果があった。グループ内でディスカッションやプレゼンテーションを行いながら答えの無い課題の解決方法を探す体験は、卒業研究をはじめ、大学における学修活動全体に有効であると期待できる。「基礎ゼミ」で修得した能動的学修のスキルをベースに、より高度な課題について考えさせ、学生個々の主体的な学修をより促進させるような新しい初年次教育科目の開発や、既存科目の内容拡充などもあわせて検討していく必要がある。

中教審の最近の答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」では、従来から「学力」として問われてきた「知識・技能」に加えて、「思考力・

判断力・実現力」や「主体性・多様性・協働性」などの総合的な能力（生きる力）の育成を提言している（文部科学省中央審議会，2014）。今回の「基礎ゼミ」のような一つの初年次教育科目の改善・拡充とともに，常にカリキュラム全体を見渡しながらか，学生の「生きる力」の育成について継続的に考えていく必要があるだろう。

#### 参考 URL

- 文部科学省中央教育審議会（2008）．学士課程教育の構築に向けて（答申） 文部科学省 2008年12月24日更新 〈[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm)〉（2014年12月24日）．
- 文部科学省中央教育審議会（2012）．新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申） 文部科学省 2012年8月28日更新，〈[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm)〉（2014年12月24日）．
- 文部科学省中央教育審議会（2014）．新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜の一体的改革について（答申），文部科学省 2014年12月22日更新 〈[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm)〉（2014年12月24日）．